

思いのまま上巻目次

1	法悦の葉と改む……………	一
2	月……………	二
3	屠牛場に行く牛……………	三
4	蜘蛛……………	四
5	自分の顔……………	五
6	活動写真を見て……………	五
7	真実の親……………	六
8	暴風……………	七
9	心の花(一)……………	八
10	心の花(二)……………	九
<hr/>		
11	心の花(三)……………	一〇
12	品行を慎め……………	一一
13	祖先の恩……………	一二
14	我身の幸福……………	一三
15	学生の墮落……………	一四
16	なめくち……………	一五
17	なめくちの足跡……………	一六
18	縁談……………	一七
19	湿れる薪に火はつかない……………	一八
20	母上の言葉……………	一八

21	寝過して……………	一九
22	散財するを聞いて……………	二〇
23	仏様を死物の様に思う……………	二一
24	聡しい私の心……………	二三
25	急ぎ進め……………	二三
26	夢の中母と対面……………	二四
27	不幸中の大幸……………	二五
28	悪趣自然閉……………	二六
29	一旦の浮生……………	二七
30	冬のシャツ……………	二八
31	心の着物……………	二九
32	氷と光……………	三〇
<hr/>		
33	桃山御陵参拝……………	三一
34	導火線……………	三二
35	時計……………	三三
36	洗濯……………	三四
37	夜半に子供の泣声……………	三五
38	教室……………	三七
39	親の感化……………	三八
40	世界的感冒……………	三九
41	僧侶の卵……………	四〇
42	試験……………	四一
43	死……………	四二
44	御影堂に跪いて……………	四四

45	露より跪い命……………	哭
46	南無阿弥陀仏を称うれば……………	哭
47	哀れな鼠……………	哭
48	渡り初めの注意……………	哭
49	煩惱を心の客人……………	吾
50	流転の相……………	吾
51	諸行無常……………	吾
52	智眼……………	吾
53	汽車……………	吾
54	鶏……………	吾
55	警告……………	吾
56	平生業成……………	吾
<hr/>		
57	怠る心……………	吾
58	大工……………	六〇
59	○……………	六一
60	歳は改れど……………	六一
61	陸路の歩行……………	六四
62	表面と裏面……………	六五
63	親の慈悲……………	六六
64	日本一の幸福者……………	六七
65	年中精進の気持……………	六八
66	不義の財……………	七〇
67	大阪駅で……………	七一
68	最後の少年処女会……………	七三

69	人様が徳を取らして下さる……………	七三
70	元気がない……………	七四
71	伯母上の御親切……………	七五
72	縁なき衆生……………	七六
73	東奔西走……………	七七
74	電燈の恩を知る……………	七八
75	お米かしつつ……………	七九
76	馬……………	八〇
77	心……………	八一
78	夢……………	八二
79	風……………	八三
80	当る罰が早い……………	八四

81	勤……………	勉……………	八七
82	内容充実……………	八八	
83	孝行な心が出ない……………	八九	
84	遇無空過者……………	九〇	
85	帰命無量寿如来……………	九一	
86	子は親を思わぬ……………	九二	
87	五劫思惟……………	九三	
88	法蔵菩薩因位時……………	九四	
89	お母様……………	九五	
90	堪忍……………	九六	
91	浮世なる哉……………	九七	
92	なつかしい両親……………	九八	

93	此の寒空に……………	二〇三
94	幸福者……………	二〇三
95	日記……………	二〇四
96	親の慈悲……………	二〇五
97	先が見えぬから……………	二〇六
98	時計の様に勤勉なれ……………	二〇七
99	増長し易い心……………	二〇九
100	御恩……………	二〇九
101	求道者の慟哭……………	二一〇
102	言うより行え……………	二一一
103	其の瞬間に動け……………	二一二
104	汝の成功は此の一刹那……………	二一三

105	幸福者よ……………	二一四
106	余の責任……………	二一五
107	月日……………	二一六
108	親と子……………	二一八
109	慎めよ……………	二一九
110	生きんが為に食う……………	二二〇
111	哀れさよ……………	二二二
112	詔うな……………	二二三
113	食欲の癖……………	二二三
114	祖先……………	二二四
115	蚊軍の攻撃……………	二二四
116	写真……………	二二五

128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117
母親の感化……………	田植……………	何が嬉しいか何が楽しいか……………	心に勝った……………	奢るな……………	両親の恩……………	之が宇宙の真相か……………	雷……………	夏衣と冬衣……………	短針と秒針……………	こつぷ……………	祖先……………
一三七	一三六	一三五	一三四	一三三	一三三	一三二	一三〇	一二九	一二八	一二七	一二六

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129
己の非をかばう……………	有形無形の財産……………	行平の漏れ……………	英語成金……………	自慢は智慧の行あたり……………	易いものが難しい……………	美と思うが哀れ……………	拾いしは我返せしは仏様……………	僕の苦痛……………	兄上の苦痛……………	母上の苦痛……………	父上の苦痛……………
一四九	一四八	一四七	一四六	一四五	一四四	一四三	一四二	一四一	一四〇	一三九	一三八

152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141
蝶	蜘蛛	宇野君の訓話	蚊	人事を尽して	顔の出来物	妄念	正行の譬	電報	座頭	こえが出る葉	駅で正信偈の講義を読む人
.....
一六〇	一五九	一五八	一五七	一五六	一五五	一五四	一五三	一五二	一五一	一五〇	一四九

153	馬	一六一
-----	---	-------	-----

思いのまま

大 沼 法 龍

明治四十三年から日記は書いて居るけれども肉体の動いて居る起居動静を記すだけであつて精神的のみ恵み、慈悲感謝の滴りを記す事を忘れて居た。

1 法悦の楽と改む

大正7年9月18日

尊い才十八願の妙法に逢わして戴き、身も南無阿弥陀仏、心も南無阿弥陀仏、逆境の中に立つて泣く人の多いのに心悦和顔さして戴く事を得るのを感謝せずには居られない。今日から後は上欄に其日の記事を記し下欄は眼に触れ耳に聞き心に感じた儘の法悦を記す事にしよう。南無阿弥陀仏。

澄み切つた月！ 気高いではないか、尊いではないか。一点の曇りもなく、欠減もなく一切の染汚を離れて居る姿は神々しいではないか。この清い姿は一切の液体に影を宿すに淨穢を選ばない様に悲智円満な真如の月は無上宝珠の名号であつて二乗の窺知する処でない。撰諸善法具諸徳本の名号は善も欲しからず悪も恐れなして煩惱の汚れを超越して居る。この名号の念力が私達を救済して下さるには老少を簡ばない、善悪を問わない、一念無疑に煩惱罪濁の胸に影を宿して、至徳を具足し往生は一定なりと大決定を得せしむるのである。

円月の形は弥陀の姿にて

出ずれば救ふ弥陀の誓ひぞ

3 屠牛場に行く牛

20

二三匹の牛が屠牛場に引かれて行くが、彼等は何を考えて居るだろうか、一歩一歩自分が死地に運れて居る事には気が付かないで、唯運命の手繩に引きづられて居るが、実に哀れではないか。嗚呼人間も、何が目的なのか、毎日同じ事を繰返して一歩一歩三悪道の屠殺場まで運ばれて居るではないか。露の命と口では言つて居るけれども驚いて求めた事が有るか、自分の死後を考えた事があるか、唯徒らに明し空しく暮しては居ないか。貪慾の歩みを運び、瞋恚の炎を走らすのみで居て妙法に逢わなかつたら牛にも劣るではないか。

ひかれ行く牛の心やいかならん

われ引かれん弥陀の御手に

4 蜘蛛

朱硯に落ちた小さい蜘蛛を救う為に、幾度も幾度も筆の先に戴せたけれども、糸が切れない為に水の中に墮ちた。諸仏も菩薩も私一人を救う為に幾度も身を捨てられた事であろう、けれども久遠劫からの業の糸が切れない為に、今迄流転を続けて来たのである。自分の糸で自分が苦しんで居たから切つて逃がしてやつたが、人間も蚕が自縛する様に愛妻愛子総てに執着をして惑業苦を続けて居るが、今、十方諸仏に称讃せられる阿弥陀仏の利剣に逢えば五悪趣は横截せられて、身心の苦惱を離れる事が出来るのである。

あせれども無明の繩に縛られて

あはや無間の鬼となるかも

5 自分の顔

22

自分の顔に自分が惚れて居るけれども、今日教室で眼鏡をはずして自分の眼の側を映して見た。何んと恐しい眼付であろうか、凄味のある光を放ち、わくどの背中の様なぶつぶつがあり、一本一本の睫毛は荒野の棘刺の様な鋭さを持ち、顔面全部が血走つて鬼の姿其儘であるのに驚かされた。小さい動物から見上げた時、悪魔に見え鬼と恐れられるのも無理はない。況んや心の底は貪瞋煩惱の渦が巻き虚仮詭詐の波が立つて一刹那も真実が無いではないか、それで居て殊勝らしくして居る私が愧しい。

美しく顔を飾れど今死せん

心を磨け顔の代りに

6 活動写真を見て

五

23